

女性と男性がともに暮らしやすい豊中市をつくるために

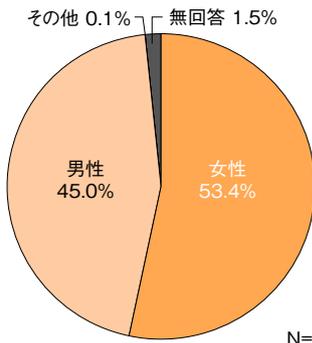
豊中市では、男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担う社会をめざして「男女共同参画計画」を策定し、男女共同参画推進のための取り組みを行っています。この調査は、今後の男女共同参画に関する施策を推進する上での基礎資料とすることを目的として実施しました。

調査の概要

- 調査対象
豊中市内に居住する満20歳以上の男女3,000人
- 調査方法
郵送による調査票の配付および回収(督促はがき1回配布)
- 調査期間
平成22年(2010年)10月12日から10月31日まで
- 有効回収数
1,291人(有効回収率 43.0%)

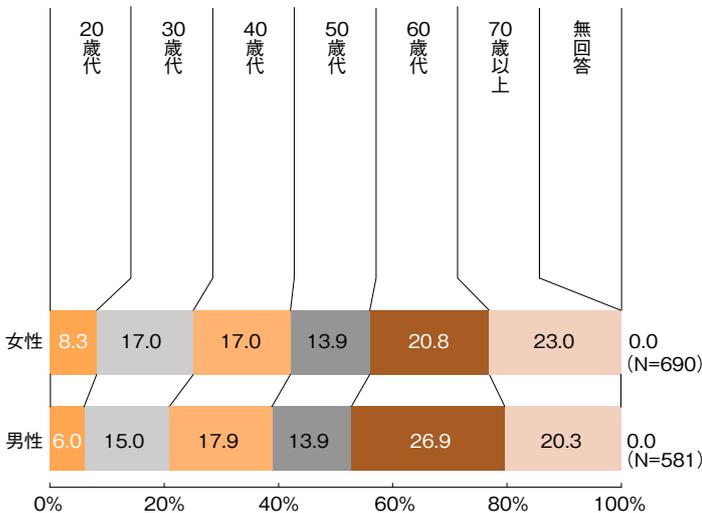
回答いただいた方々のプロフィール

性別

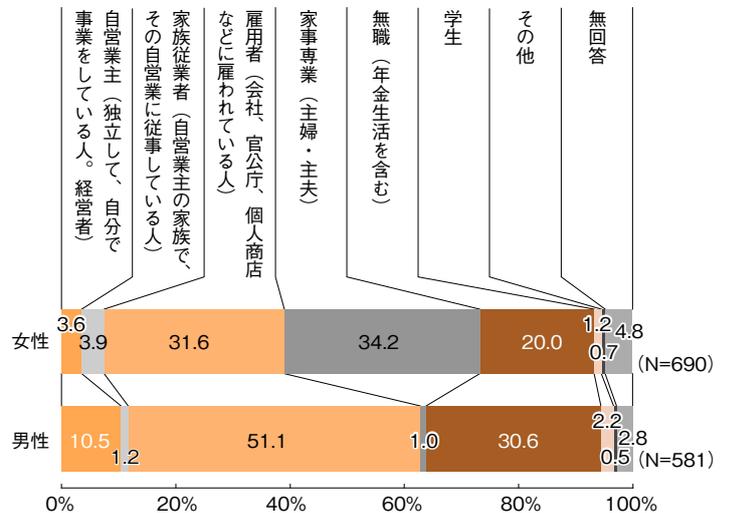


回答者は、女性が過半数を占め、女性では70歳以上、男性では60歳代の割合が最も高くなっています。就業状況を見ると、女性では「家事専業」が約3割、男性では「雇用者」が半数を占めています。

年齢



職業



【概要版の見方】

- 調査結果の数値は%で、回答者数はNで示しています。
- 数値は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。
- 複数回答の場合は、合計が100%を超える場合があります。

豊中市では こんな社会を めざしています！

「男女共同参画社会とは」 ～豊中市男女共同参画推進条例前文より抜粋～

すべての人の人権が尊重され、自らの意思で生き方を選択し、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮し、職域、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野における活動に対等に参画することができる男女平等を前提とする社会

各分野での男女平等感

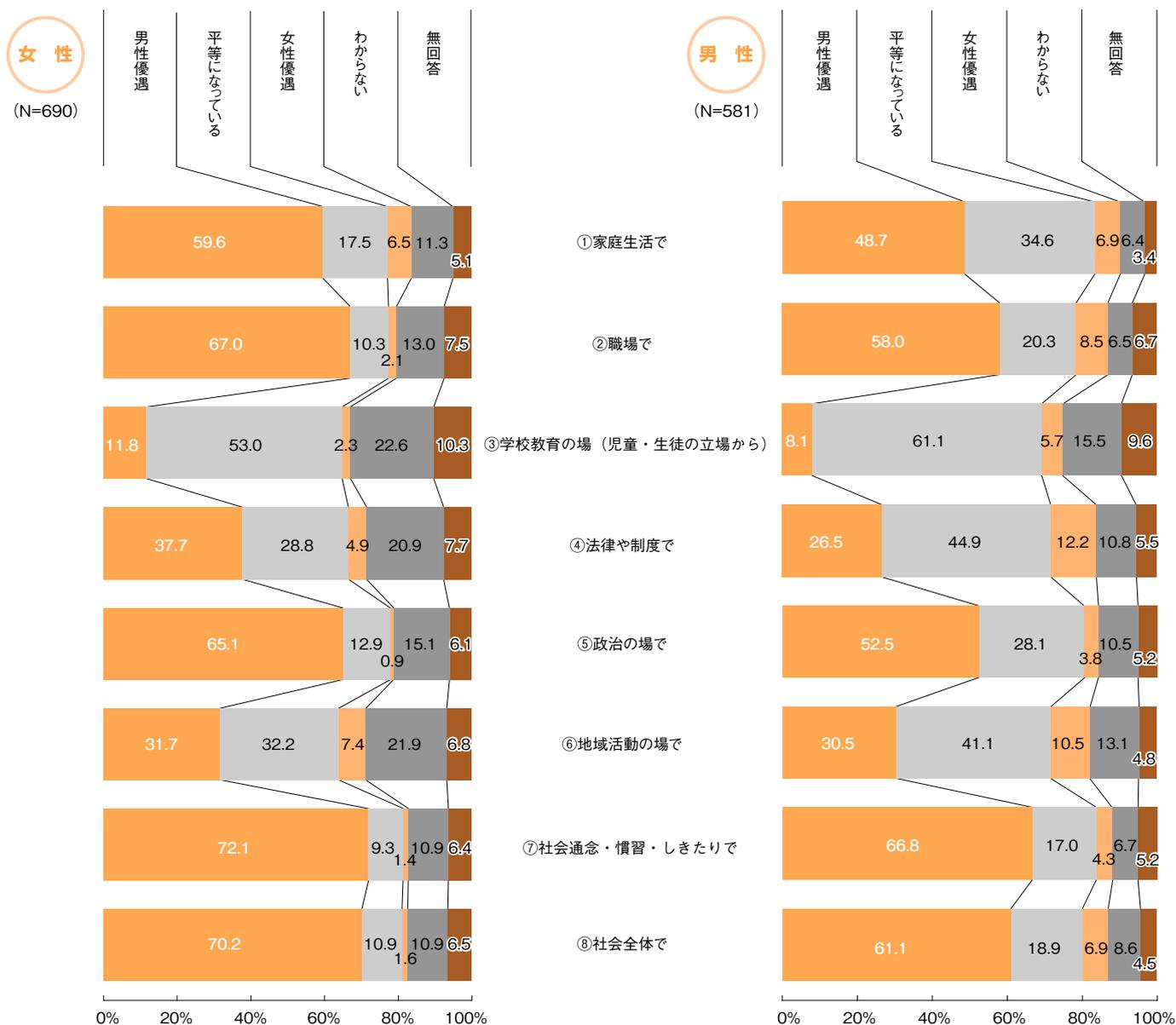
各分野で「男女平等になっている」と思う割合は、男女ともに「学校教育の場（児童・生徒の立場から）」が最も高く、女性で53.0%、男性で61.1%とそれぞれ半数を超えています。また全ての項目で「平等になっている」は、男性の方が女性よりも高い割合を占め、特に性別による差がみられるのは、「家庭生活で」、「法律や

制度で」、「政治の場で」、「職場で」の分野です。

全ての項目で『男性優遇』は女性の方が男性よりも高い割合となっています。「社会全体で」は、女性は70.2%、男性は61.1%が『男性優遇』と回答しています。

*『男性優遇』：「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した割合

Q.あなたは、一般的に、次の各分野で男女は平等になっていると思いますか



希望する暮らし方／現実の生活

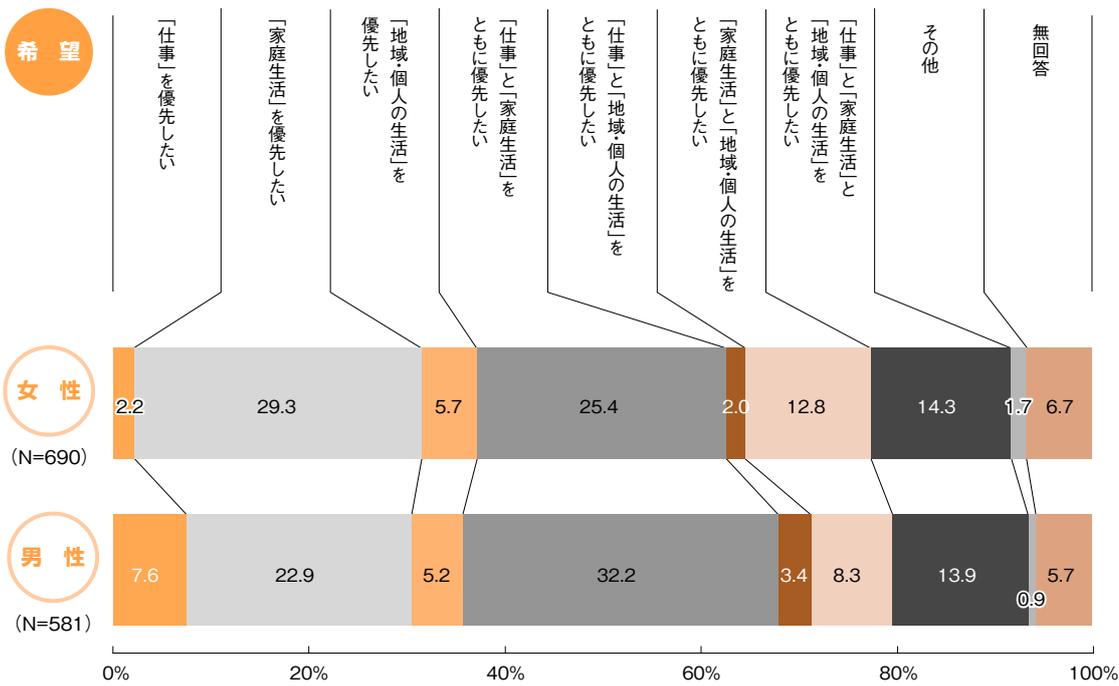
「希望する暮らし方」として、女性では「家庭生活を優先したい」が29.3%で最も高く、『仕事と他の活動を両立させたい』割合は、41.7%となっています。男性では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が32.2%で最も高く、『仕事と他の活動を両立させたい』割合は、49.5%です。

「現実の生活」として、女性では「家庭生活を優先している」が42.9%で最も高く、『仕事と他の活動を両立している』割合は、19.8%となっています。男性では「仕事を優先している」が34.3%で最も高く、『仕事と他の活動を両立している』割合は、26.7%となっています。

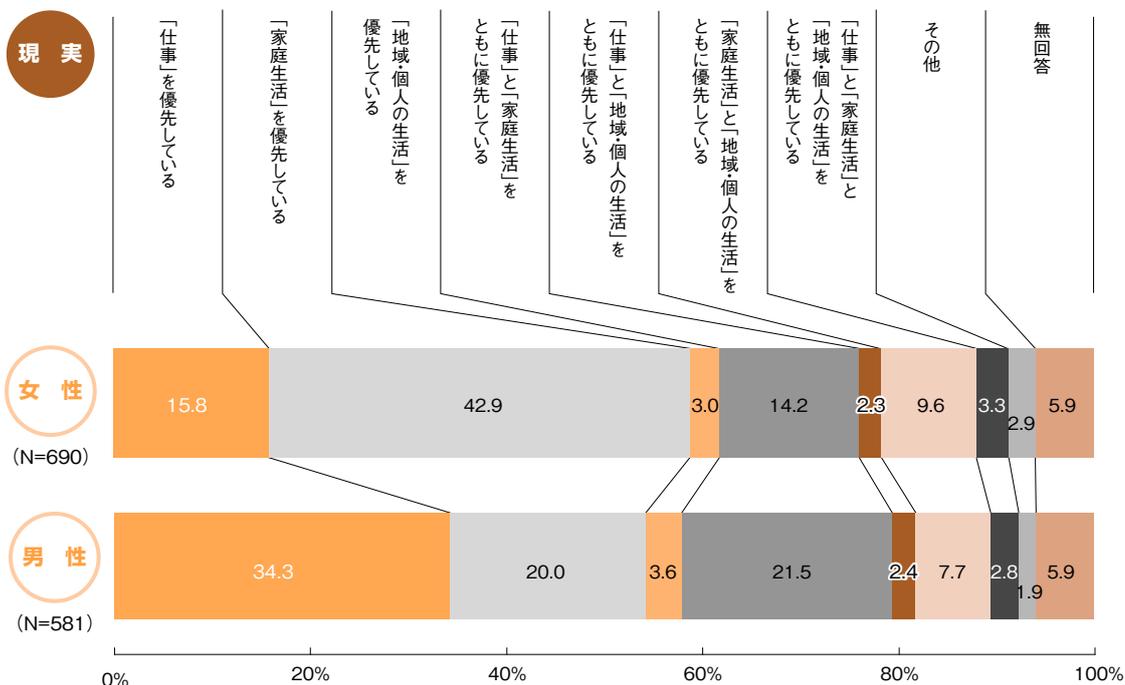
女性では「家庭生活を優先したい」が29.3%で最も高く、『仕事と他の活動を両立させたい』割合は、41.7%となっています。男性では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が32.2%で最も高く、『仕事と他の活動を両立させたい』割合は、49.5%です。

※「仕事と家庭生活をともに優先したい」、「仕事と地域・個人の生活をともに優先したい」、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の合計を、『仕事と他の活動を両立させたい』割合とする。「仕事と家庭生活をともに優先している」、「仕事と地域・個人の生活をともに優先している」、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」の合計を、『仕事と他の活動を両立している』割合とする。

Q.あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか



Q.あなたの現実の生活に最も近いものはどれでしょうか



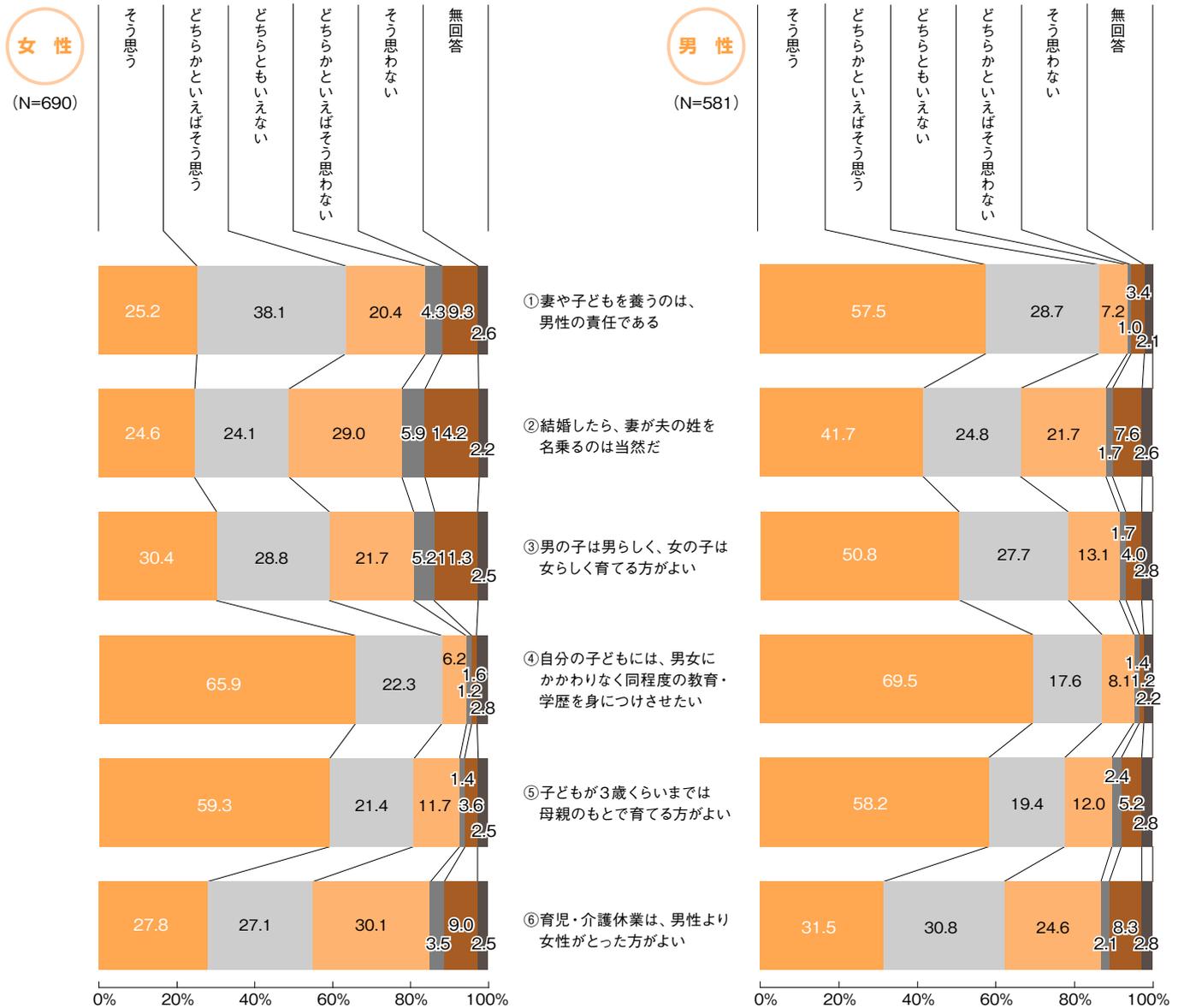
日常生活や社会全般についての考え方

日常生活や社会全般についての考え方を問う設問のうち、「自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい」という考え方に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、男女ともに80%を超えています。

一方で、「妻や子どもを養うのは、男性の責任であ

る」、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」、「結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」という考え方に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、女性よりも男性の方が高く、それぞれ22.9ポイント、19.3ポイント、17.8ポイントと、性別間の差があります。

Q.あなたは、次の項目についてどのように思いますか



雇用の場における男女平等感／働くうえで大切なこと

雇用されて働いた経験のある人に職場での男女平等についてたずねたところ、『男性優遇』は、男女とも「昇進・昇格、管理職への登用」が最も高く、女性72.4%、男性69.8%を占めています。『女性優遇』は、男女とも「育児・介護休暇のとりやすさ」が最も高く、女性41.2%、男性47.7%となっています。

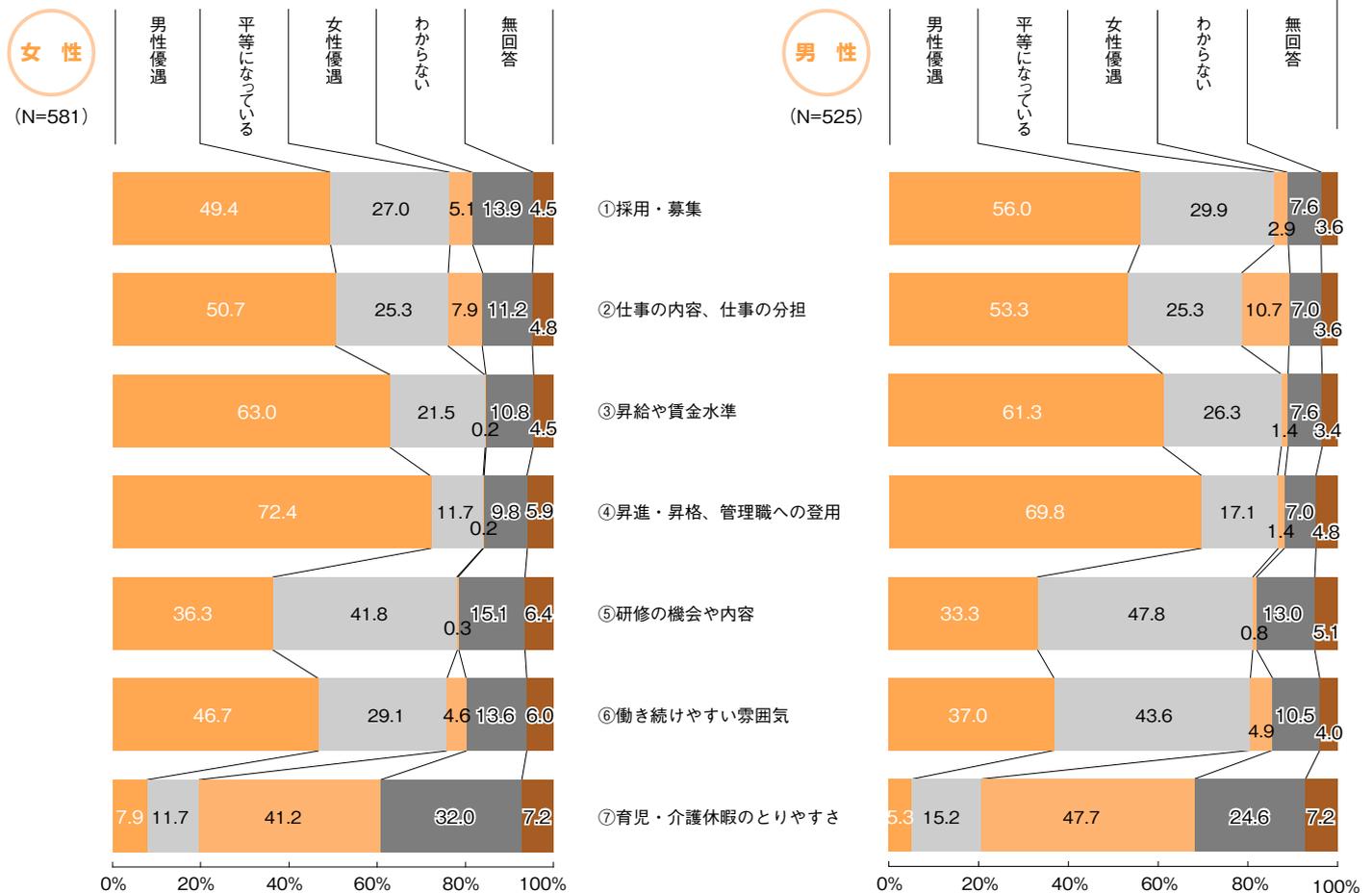
「平等になっている」の割合は、男女ともに「研修の機会や内容」が最も高く、女性41.8%、男性47.8%を占めています。

「働き続ける、働き始めたいときに大切なこと」について、女性では「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができること」が57.0%で最も高く、男性では「厚生年金など社会保障が整っていること」が53.7%で最も高く、それぞれに過半数を占めています。

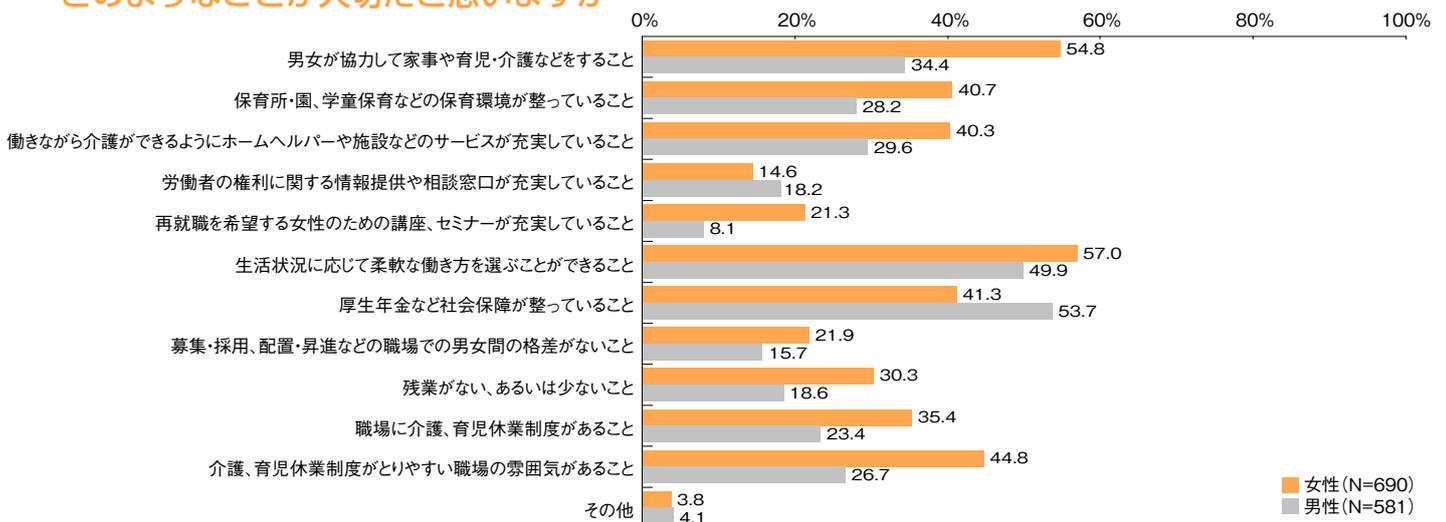
*『男性優遇』：「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した割合

*『女性優遇』：「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合計した割合

Q.あなたは、雇用の場は次の項目について男女は平等になっていると思いますか



Q.もし、あなたが働き続けたい、あるいは、働き始めたいと考えた場合、どのようなことが大切だと思いますか

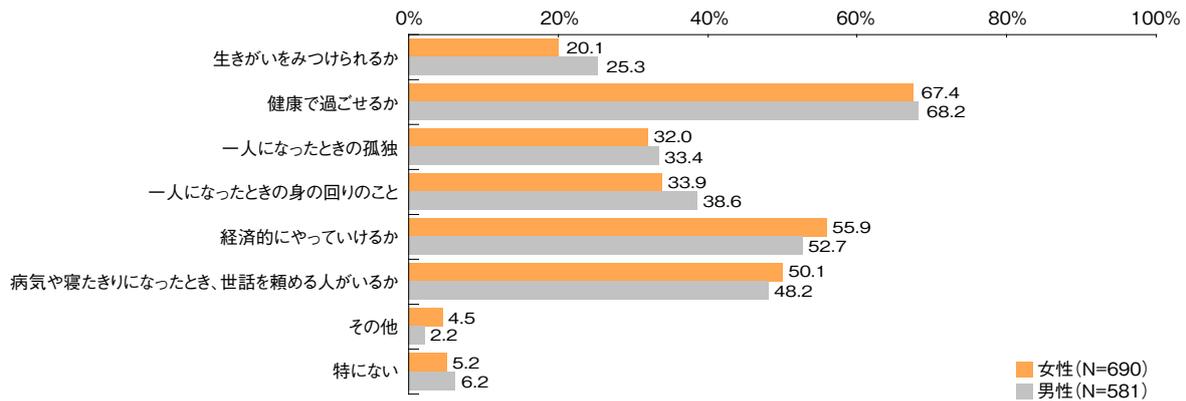


高齢期の生活の不安／地域活動の参加状況

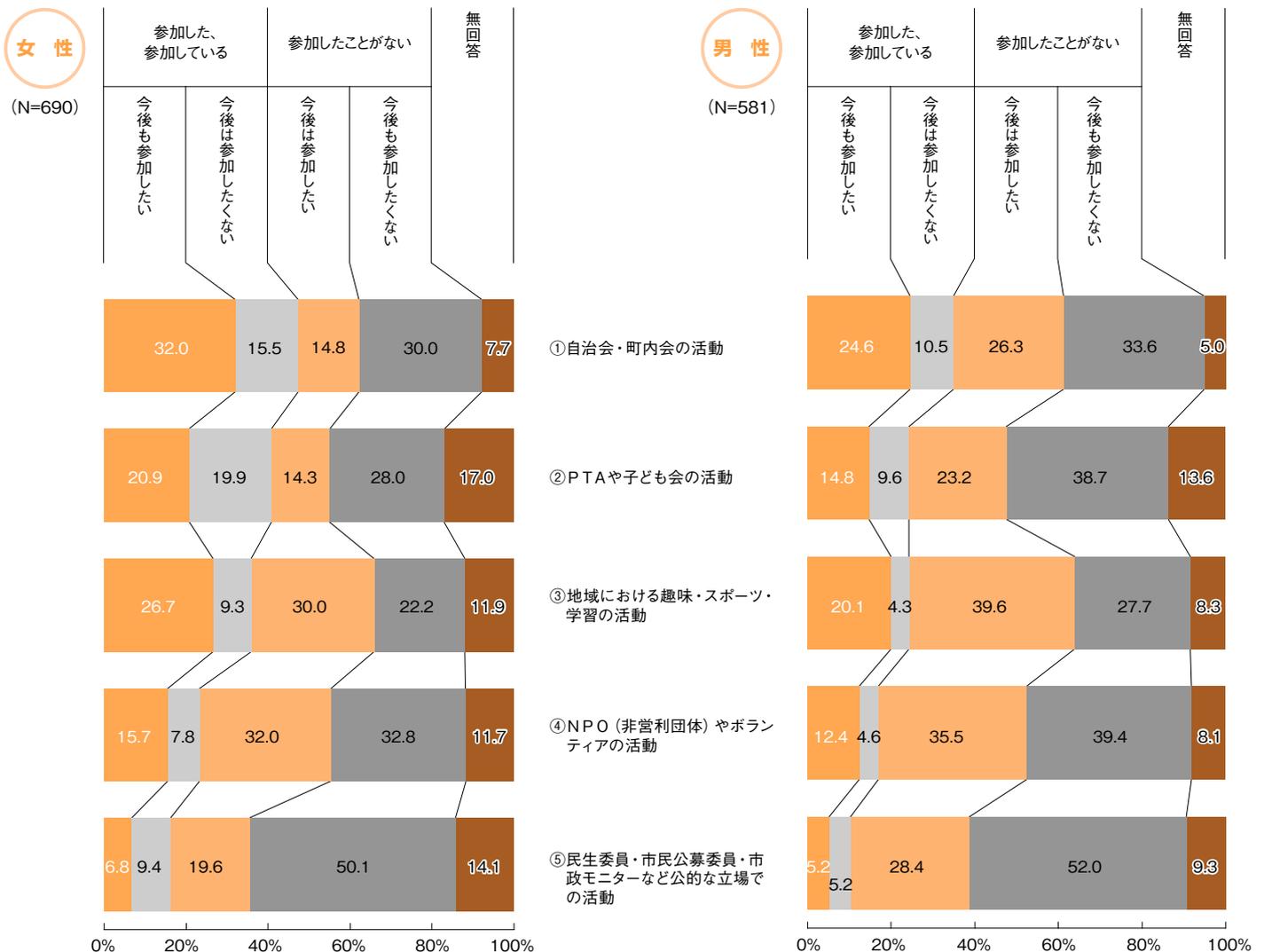
「高齢期の生活で不安に思っていること」について、男女ともに「健康で過ごせるか」が最も高く、女性では67.4%、男性では68.2%を占めています。ついで「経済的にやっていけるか」、「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」と続きます。

一方で「参加したことがないが今後は参加したい」地域活動において、女性では、「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」が32.0%と最も高く、男性では、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が最も高く、39.6%を占めています。

Q.あなたが高齢期の生活について、特に不安に思っていることはありますか



Q.次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○をつけてください



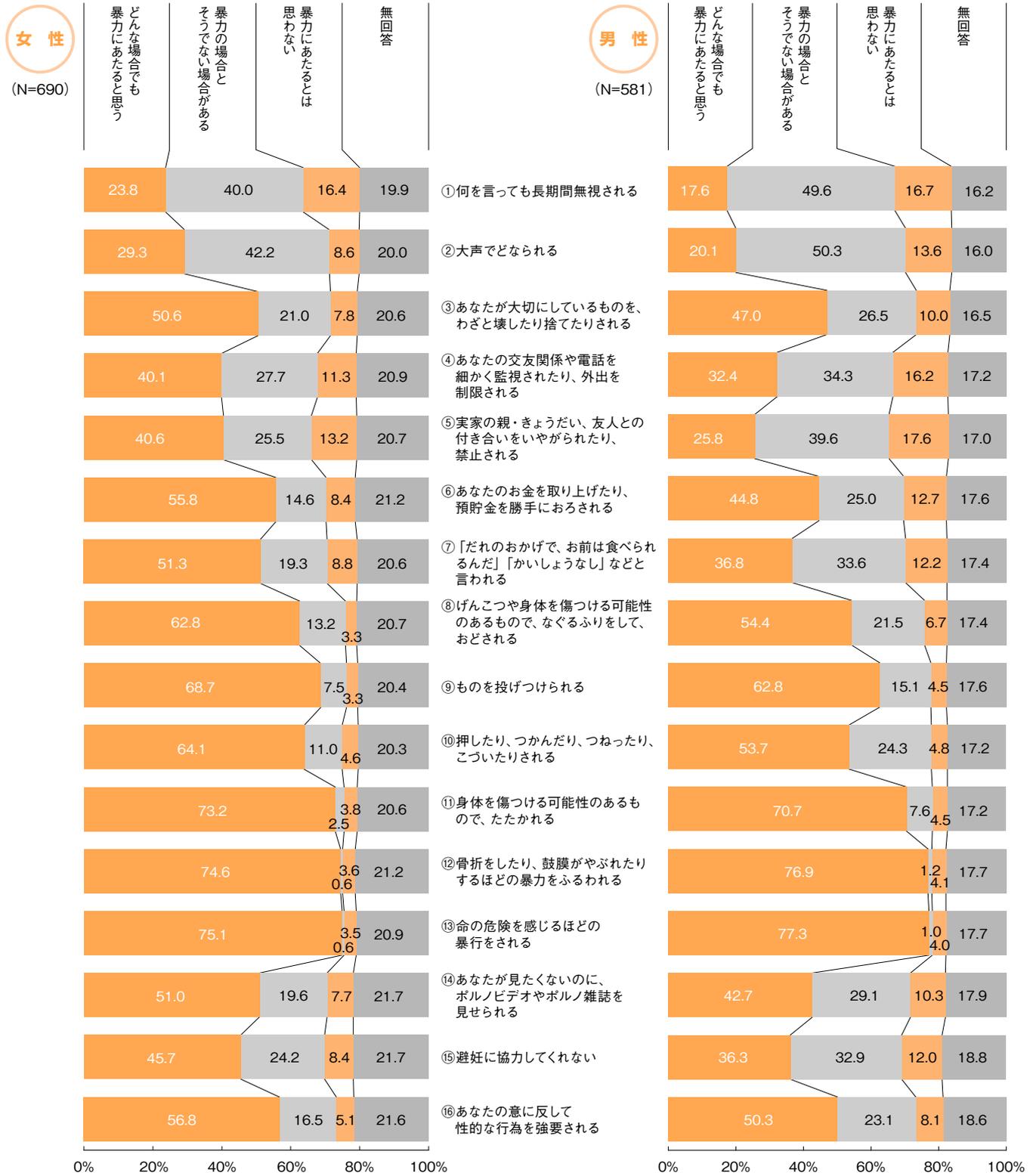
ドメスティック・バイオレンス (DV) に対する認識

「DVに対する認識」について、男女ともに半数以上が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識しているものは、「げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」「ものを投げつけられる」「押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」「身体を傷つける可能性のあるもので、たたかれる」などの身体的な暴力です。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」において、

男女の差が大きいものは、「実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」(14.8ポイント)、「『だれのおかげで、お前は食べられるんだ』『かいしょうなし』などと言われる」(14.5ポイント)、「あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる」(11.0ポイント)であり、男性よりも女性の方が高く、男女でDVに対する認識の差があります。

Q.あなたは、配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされることは暴力にあたると思いますか



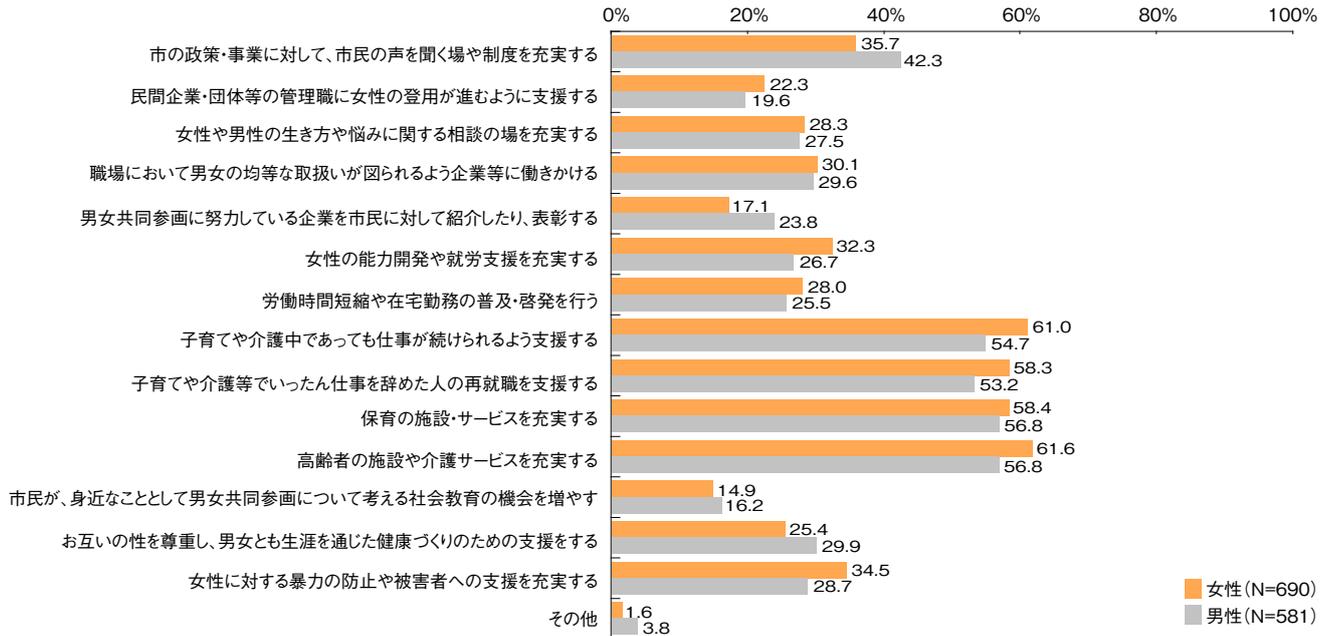
女性と男性がともに暮らしやすい社会をつくるために

男女共同参画社会の推進のために市が今後力を入れていくべきこととして、女性では、「高齢者の施設や介護サービスを充実する」が61.6%と最も高く、男性では、「保育の施設・サービスを充実する」と「高齢者の施設や介護サービスを充実する」が56.8%と最も高くなっています。

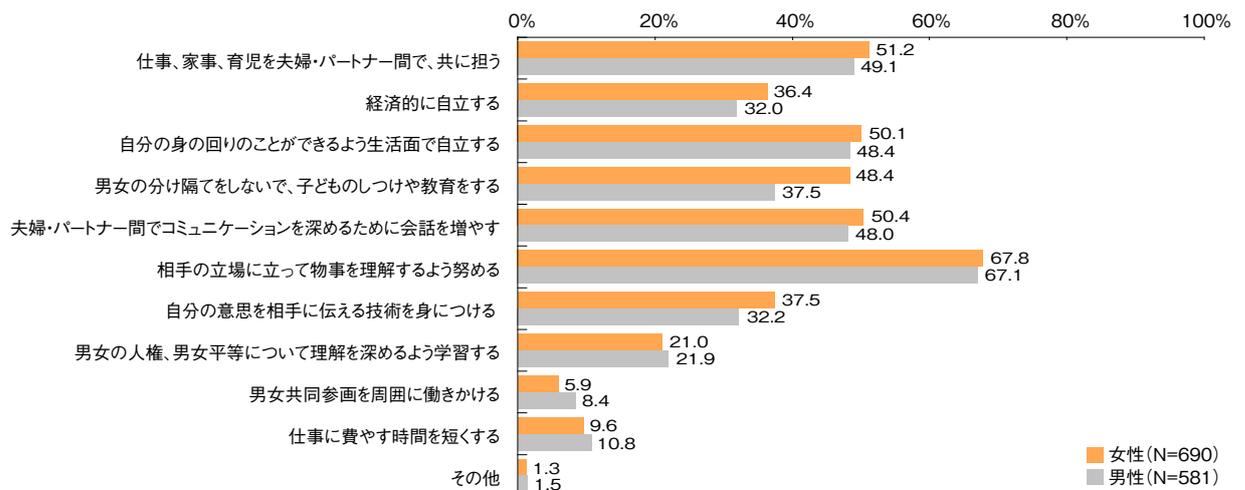
男女共同参画社会をつくるために、「自分自身に何ができるか」について、男女とも「相手の立場に立って

物事を理解するよう努める」が最も高く60%を超えています。女性では、「仕事、家事、育児を夫婦・パートナー間で、共に担う」、「夫婦・パートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす」などが半数を占め、男性では、「仕事、家事、育児を夫婦・パートナー間で、共に担う」、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」が高くなっています。

Q.あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか



Q.男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会をつくるために、あなたご自身は何ができると思いますか



「女性と男性がともに暮らしやすい豊中市をつくるためのアンケート調査」

結果報告書 概要版

発行 平成 23 年 (2011 年) 3 月

豊中市人権文化部男女共同参画推進課

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1 TEL: 06-6858-2654